

# 日本の常任理入り是非は

京で国連  
シンポ 市民100人聞きこ入る



日本の国連安保理常任理事国入りをめぐって意見を  
交わす出席者(京都市中京区・京都新聞文化ホール)

を改革する必要性がある  
と指摘し、「日本が常任  
理事国入りする理由や資  
格は十分にある」と話し  
た。

「現在の常任理事国に  
よる決定では、世界のコン  
センサスが得られにく  
い」とする角参事官は、  
「日本の加入で安保理が  
強化され、世界の信頼も  
得られる」と常任理事国  
入りの意義を訴えた。

星野教授は、安保理に  
加入するための条件とし  
て「歴史問題などで悪化  
した近隣諸国との関係修  
復や、米国追従でない独  
自外交を打ち出す必要が  
ある」と話した。

シンポジウムは、国連  
協会京都本部、外務省、  
京都経済同友会、京都新  
聞社の主催で、年二回開  
いている。

国連公開講座・特別シ  
ンポジウム「世界を語る」  
が十二日、「日本は常任  
理事国になるべきか」を  
テーマに、京都市中京区

星野俊也・大阪大大学院  
教授、外務省の角茂樹・  
国際社会協力部参事官が  
論議し、市民ら約百人が  
熱心に聞き入った。

の京都新聞文化ホールで  
開かれた。須藤眞志・京  
都産業大教授の司会で、

冒頭、須藤教授は、国  
連がテロなどに対応する  
ために、安全保障理事会